

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3894000045
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホーム わたしの青空
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町城辺乙6 9 6 番 1 0
自己評価作成日	平成22年2月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・毎月事業所便りを発行し、毎月の利用者の様子をご家族へ知らせています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>ホームの名前にちなんで「わたしの青空」の歌を利用者と職員の歌声で玄関外に流されていた。さらに、壁には大きな木版に墨で書いた歌詞が飾られていた。天窓から自然の光を採り入れ、換気もされている。畳のコーナーは、洗濯物をたたむ際に利用することもある。居間には、ゴミの分別ケースがあり、利用者はご自分で使ったものを分別し、捨てておられた。テレビの前には折り紙で作ったおひな様が飾られていた。</p> <p>事業所で「職員組合」を作っておられ、労働環境等、働く側の意見を出すことができるようになっていた。職員会議時には、業務の流れや勤務のシフトについて等、職員みなで話し合い、個々が働きやすい職場環境作りに取り組まれている。職員は希望に応じて、カウンセラーを受けられるようになっていた。ユニット間の職員異動については、職員と利用者の相性を見ながら検討されている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム わたしの青空

(ユニット名) 西通り

記入者(管理者)

氏名 宮平 恵

評価完了日 平成22年 2月 22日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) リビング内に理念を掲示し、念頭におき実践に繋げるように心がけている。	
			(外部評価) 事業所は「ゆったりとした自由な暮らし」「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分でやれる喜びと達成感のある暮らし」「自分らしさや誇りを大切にされる暮らし」「地域住民の一人であるという実感のある暮らし」という理念のもとに、利用者と職員の関係を「生活のパートナー」と位置付けて、実践に向けて取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) イベント時にはチラシを配布し、気軽に立ち寄って頂けるように努めている。	
			(外部評価) ホーム名を書いた青いボードを道縁に数カ所立て、事業所への道案内を作っておられる。開設から1年間、事業所では、芋炊きやミニコンサート等の行事を行う際、地域の方にも案内され、数名の方が来てくださった。受診で病院へ行った際、声を掛けてくださる方もある。近くの団地の子ども達がホームに遊びに来られることもあり、子ども達が宿題をして帰ることもあり、学校の先生をされていた利用者の方は、いきいきとされるようである。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 取り組めていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 入居状況や行事等の報告を行っている。行政の方にも毎回参加をして頂いており、ご家族からの意見等が直ぐに届き改善点を話合うことができている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、他市町のグループホーム管理者を講師に招き「家の中でトイレをさがして」と題して、高齢者の疑似体験をされたり、又、看とりの事例についてお話しいただき、出席者とともに「終末期ケア」についてのDVDを見られたこともある。又、ご家族には、会議時に外部評価の意義を説明されたり、家族アンケートへの協力等もお願いされた。近くの集会所で会議を行っておられたが、出席者よりホームでの開催をすすめていただき、現在は、事業所内で会議を開催されている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で事業所の実情やサービスの取組みを伝えたり、必要に応じて相談をする等協力関係を築くようにしている。</p> <p>(外部評価) グループホームの支援について「出来ること出来ないこと」等、看取りの支援についても相談しながら取り組まれている。運営推進会議で、ご家族より事業所周囲の道路の安全面についてご意見があり、出席いただいた町の担当者の方を通じて改善につながった。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) カンファレンス時に情報を共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。帰宅願望により屋外へ出歩く時は職員が一緒に付き添って時間をかけて対応している。</p> <p>(外部評価) 開設前研修で、職員は、身体拘束のないケアについて勉強されており、利用者の行きたいところに自由に出かけられるような支援に向けて努力されている。調査訪問時、「帰りたい」と言われる利用者が玄関を出入りされていたが、職員は止めることなく、見守っておられた。管理者は「これからは言葉による拘束についても勉強をしていきたい」と話されていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会は実践されていない。虐待を受けていた方が入居していたが、接し方や言葉遣いには十分注意しながら対応し、ご本人の心身も安定していた。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 取り組めていない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に時間をとって説明し利用者、家族の不安や疑問点を尋ね、納得をして頂けるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や面会時に意見、要望を聞きだすように努めている。	
			(外部評価) ご家族の来訪時には利用者とゆっくり過ごせるよう配慮され、その後で職員はご家族とお話する時間を作るようにされている。運営推進会議に、多くのご家族に出席していただけるよう、全員に案内をされている。毎月発行しているホーム便りでは、行事の報告と「認知症の理解と介護」の情報と、担当職員がそれぞれの利用者の日々のエピソードを添えて発行されている。各ユニットの入り口の掲示板に職員紹介の写真と名前を掲示されており、職員の異動については、運営推進会議時に伝えておられる。	近々庭に建てた木製の「多目的プレハブ」で「模擬喫茶店」を開く予定となっており、ご家族に案内をされていた。今後も、さらにご家族との関係を深め、サービスを利用する側からの具体的なご意見をうかがい、事業所のケアの質向上に向けた取り組みにつなげていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議時に意見を聞く機会をもうけている。職員組合を結成しているがまだ機能していない。	
			(外部評価) 事業所で「職員組合」を作っておられ、労働環境等、働く側の意見を出せるようになってきている。職員会議時には、業務の流れや勤務のシフトについて等、職員みなで話し合い、個々が働きやすい職場環境作りに取り組まれている。職員は希望に応じて、カウンセラーを受けられるようになっている。ユニット間の職員異動については、職員と利用者の相性を見ながら検討されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) キャリアパス体制の一環として勤務考課制度を導入している。 産業カウンセラーとメンタルヘルス業務契約を結び、職員が電話及び面接によるカウンセリングを受けられるようにしている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 特に、人権感覚を磨き人権尊重意識を高めることが肝要と考え、町内で行われる学習機会に積極的に参加させている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者を職員研修に講師として招いて学んだり、運営推進会議に互いに招き合うなどして交流機会の確保に努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に訪問面談し不安な事、要望を聞き安心して頂けるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に事業所内の見学に来て頂き、不安な事や要望を聞き安心して頂くような関係づくりに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族等と必要としている事をよく話し合うようにしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できる事できない事を見極めて、できる事は職員と一緒にして頂いている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との情報交換を行いながら一緒に支援させて頂いているという思いを伝えるようにしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人との連絡や交流、馴染みの場所へ行く事ができるように支援している。	
			(外部評価) ご自宅で住んでおられた折、毎日お墓参りをされていた方は、入居後も職員が同行して週に1回程度はお参りができるよう支援されている。お参りの際には、顔見知りの人と会うこともある。ご自宅が気になる利用者の方には、ご自宅近くの親戚の方のお宅に立ち寄り、挨拶等してからご自宅に行かれています。ご家族と一緒に馴染みの美容院や理容店に出かけられる方や、時には訪問美容室でパーマをかける方もある。携帯電話を持って、ご家族と連絡をされる方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係情報を職員間で共有し、楽しく穏やかに過ごせるように支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も気軽に立ち寄って下さっている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中での会話や行動から意向をくみ取ったり、尋ねたりして把握するように努めている。	
			(外部評価) 職員は、利用者から暮らし方等について希望等をお聞きしたり、日々のかかわりの中から汲み取るようにされている。アセスメント表に記録されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族より情報を得て、職員間で情報を共有している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日介護記録や健康状態の記録をつけて職員間で申し送りを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			面会時に家族の意向をお聞きし、カンファレンス時に利用者の変化や家族の意向を踏まえて話し合い、介護計画作成に反映している。	
			(外部評価)	
			ご家族の来訪時やお電話で、ご本人の生活についての要望や意見を聞き取っておられる。アセスメントシート等に利用者個々の情報を集め、毎月のカンファレンスで検討し、6ヶ月毎に見直しされており、状態等に変化がある場合は随時見直しをされている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			介護記録や介護日誌に毎日の様子を記入し、引継ぎの時間に申し送りしている。カンファレンス時には情報を共有し、介護計画を見直している。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			通院介助や希望に応じての外出は職員が同行し、対応している。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			イベントに参加してもらっている。地域の子供たちが来ることがある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は本人、家族の希望を尊重している。状 態が変わり、通院困難となった時は家族やかかりつけ 医と相談し協力医へお願いする事もある。	
			(外部評価) かかりつけ医への受診は事業所で同行されている。通 院がむづかしくなった場合には、協力医の往診も受け られるようになっている。歯科はかかりつけ医を受診 されたり、訪問診療も受けられるようになっている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 気づいた事は職場内の看護職員に報告、相談を行い健 康管理に留意している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は介護現場からの情報を提供している。退院時 も関係者と連絡、相談を行い家族が安心できるように 努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状態により適切な時期に家族に説明し、十分 に話し合いをし、協力医との連携をとり支援してい る。	
			(外部評価) 入居時、重度化した場合や終末期のあり方について事 業所で出来ること、出来ないことを説明されている。 重度化した際には、看取りの指針に基づき説明され、 同意を得るようにされている。看取りについてご本人 の以前の意向をご家族から聞き、ご家族やご本人の意 向を大切に、協力しながら看取りを支援された事例が ある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 訓練は実施できていない。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練を行うようにしている。地域との協力体制は築けていない。 (外部評価) 西通りユニットでは、台所の天ぷら油からの出火を想定して、利用者とともに避難訓練を行われた。	管理者は「防火管理者を中心に火災、地震等を想定した訓練にも取り組んでいきたい」と話されていた。避難経路や避難場所の確認、ユニット同士で協力し合っでの避難訓練、夜間想定訓練にも取り組み、利用者、職員のさらなる安心と安全の確保に取り組まれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者に合った話し方、なじみの言葉、敬語を使い分けている。 (外部評価) 食後、帽子をかぶりバックを持って帰ろうとされる利用者の方に、玄関で「外は寒いですからマフラーをしたほうがいいですよ」と声掛けをされていた。首にタオルを巻いて出てこられたご本人は「タオルはかっこ悪いから」と言って庭を散歩して戻って来られた。利用者の言葉や行動を止めることなく対応されたり、声かけに努めておられる様子がうかがえた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自分の思いや希望を伝えられるような声かけや対応を行うように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思により自由にゆったりと過ごせるように支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望に応じて訪問美容を利用しカットやパーマを行い、快適に過ごして頂けるようにしている。女性利用者にお化粧品、マニキュアを希望に応じて行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自分から手伝って下さる方は食材切りや配膳、後片付けを職員と一緒にしている。	
			(外部評価) ご家族から届いたお魚を男性利用者にさばいていただいたり、調理にこだわりのある方に調理方法を教わることもある。職員は「時間が掛かってでもご自分で食べていただける」ような支援に努めておられ、又、下膳、食器拭き、テーブル拭きをされたり、ご自分の食べこぼした物をペーパーを取ってご自分で拭きとっておられる様子もうかがえた。利用者が下膳された際には、職員が「有り難うございます」と声をかけ、食後にはコーヒーを皆で楽しまれたり、食事の感想をVサインで伝えてくださる方もあった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量、水分量は確認している。食事形態はその方によったり、体調に合わせて違っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は口腔ケアを実施している。嗽ができない方はスポンジブラシを使用したり、口腔清拭を実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は可能な限り、見守りや定期的な声かけを行い、トイレで排せつしている。	
			(外部評価) 昼間はトイレで排泄できるように支援されている。ご家族から「車いす対応のトイレが寒い」とのご意見があり、使用時には電気ストーブを付けて、あたたかく安心して排泄できるようにされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量に気をつけたり、適度な食物繊維摂取と好みに応じて乳製品を取り入れている。毎朝体操をして、体を動かすようにしている。どうしてもでない時は医師に相談し薬を服用している。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できるようになっている。希望があれば朝に入浴する事もある。	
			(外部評価) 入浴を嫌がる人には、「明日は病院に行きます。」「ひな祭りがあります。」等、入浴のきっかけになるよう声かけを工夫されている。石鹸を使っている方や入浴剤を入れる方等もあり、職員同士が入浴の誘い方の成功例を伝え合い、利用者に気持ちよく入浴してもらえるように努力されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ゆったりと自由に自分の時間を過ごして頂いている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書は個別ロッカーに保管し、薬の内容についていつでも確認する事ができる。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) できている方とできていない方があり、十分ではない。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外泊、外出は家族の協力も得ながら、いつでも出来るように努めている。	
			(外部評価) ご家族が迎えに来られて、定期的に、ご自宅に外泊をされる方や買い物に出かける方がいる。地域のさつき展に行かれたり、お花見にも出かけておられる。事業所の周りは坂道で、歩いて外に出ることはむづかしいようであるが、日常的に車を使って外出を楽しまれている。	職員は「これからさらに利用者と散歩したり、買い物に行く等、外出の機会を作りたい」と話されていた。さらに、地域に出かけていき、利用者個々の生活を拓げていかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に応じて所持して頂いたり、事務所で保管している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由にして頂いている。ご自分で携帯電話を所持し自由にやり取りしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>玄関やリビング内に利用者の写真を飾ったり、利用者と一緒に飾りを作って飾ったり、花を飾ったりと季節感を出したりと居心地よく過ごせるように配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ホームの名前にちなんで「わたしの青空」の歌を利用者と職員の歌声で玄関外に流されていた。さらに、壁には大きな木版に墨で書いた歌詞が飾られていた。天窓から自然の光を採り入れ、換気もされている。畳のコーナーは、洗濯物をたたむ際に利用することもある。居間には、ゴミの分別ケースがあり、利用者ご自分で使ったものを分別し、捨てておられた。テレビの前には折り紙で作ったおひな様が飾られていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングにソファを置いたり、畳のスペースもある。一人ひとりが思い思いに過ごせ、気の合う者同士で座ることができるように配慮している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>使い慣れた物を持ち込んで頂き、安心できる空間をつくるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室入口には、それぞれにご本人の笑顔の写真を飾っておられた。お好みで床に布団を敷いて生活されている方もある。大事にしている人形やこたつや机、椅子、ダンス、鏡台、時計等があり、奥様の写真を飾っておられる方もあった。テレビに寄りかかって転倒が心配される方のお部屋では、テレビを押入に入れ、ベットや椅子からテレビが見やすいようにされていた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>できる事はして頂き、できない事は支援している。</p>	